

投句欄
自由律の泉
③

- 1 使い古しの体だけど使い慣れている 久光 良一
- 2 どこへ急ぐの赤黒の丸 田中 美太
- 3 せみしぐれせせらぎに流れている 大岳 次郎
- 4 夜汽車に倣つて私もこのころのトンネルを通過する 植田 鬼灯
- 5 灼ける中 風も黙禱する献花の列 金澤 ひろあき
- 6 足音大きく友を呼んでいる 無 一
- 7 折鶴飾る令和の風のやさしくて 棚橋 麗未
- 8 秋の気配もみえない檄がとぶ 和崎 はると
- 9 金がない俺より先に逝くな 檜 幽可
- 10 女が中途半端に残ったマキユア 佐川 智英実
- 11 夕日を背におしろい花はお出まし 白松 いちろう
- 12 朝顔の花屋根までのぼつてテロのニュース 井尾 良子
- 13 風の色が変わり終わりを歌う風鈴 ちば つゆこ
- 14 仲良くしろよ手のひらの地球儀 富永 鳩山
- 15 強い風はさよならのしるし 富永 順子
- 16 土用入り長くなる鰻屋の「う」 野谷 真治
- 17 おばあさんのおしゃべり小鳥亭 平岡 久美子
- 18 鳴き了えて落ちた蟬の天空 佐瀬 広隆
- 19 人混みすり抜ける目線の交換 部屋 慈音
- 20 集中豪雨鉢からめだか溢れる 荻島 架人
- 21 二度童子また同じ坂をのぼる 新山 賢治

● 泉 ②より 一句鑑賞

夜の雨の優しさ音にしている

佐瀬広隆

▼日照り続きの時など、ひさしぶりに雨が降ると心が癒されるような気がします。特に夜の雨音はしつとりと優しく、しみじみとした気持ちにさせられます。「優しさ音にしている」という表現にひかれます。
(久光良一)

忘れる勇氣消しゴムの角がとれる

黒瀬文子

▼消しゴムが新しかったのか、勇氣で消した忘れたいものは何だろうと思いました。角が取れる程の。
(田中美太)

待合室で病んでいく

富永鳩山

▼近頃は予約制になって、待たされ時間が少なくなつてはきていますが、その時間は短いものではないと思います。待っている間に病人は、待ち疲れのために弱ってしまいます。実感として受け止めることができました。(大岳次郎)

▼百歳時代の到来といわれ、病院はいつも混みあつていて、待っている間に外の症状が出てきそうな今日この頃です。医師のひと言「加齢です」に一層気分を悪くさせられます。

(白松いちろう)

▼病人には、待合室で、長時間待たされるのはつらいですね。
(ちばつゆこ)

▼病院の待合室だろうか。それとも、駅の待合室かもしれない。電車の事故で、駅にて、止まった電車が動くのをずっと待っている。少しずつ、病んでいるのだろうか
(野谷真治)

なぜか今日もつと鳴れと稲光

部屋慈音

▼自分に不足する勇氣、意志。それらを思い自らを激励しようとしているのでしょうか。あるいは叶わない思い、怒りがあるのか等、ドラマを想起します。自由律はドラマを描くことができるのです。
(金澤ひろあき)

二人合わせて一五六歳ほうじ茶がうまい 白松いちろう

▼「ほうじ茶がうまい」に、夫婦仲のよさを感じました。合計年齢「一五六歳」ですか(笑)
(無 一)

雪とけてバツケ芽を出す桜咲く

和崎はると

▼ふと故郷を思い出しました。東北の春はおそく、梅・桃・桜と一緒に咲きます。そしてバツケが顔を出すのです。バツケとは「露の臺」のことです。とてもなつかしい作品でうれしくなりました。
(棚橋麗未)

夏の地下道ひんやりと迎えてくれる

無 一

▼私の散歩コースにも地下道があります。そう言われれば、トンネルや鉄橋の下などの生活道路はよくつかっています。風が吹き抜けて、冷んやりと迎えてくれますネ。

(和崎はると)

から梅雨の放射能いびつなゼロ

野谷真治

▼私好みの良い句です。「いびつなゼロ」だなんてシニールですね。「放射能」にとって「空梅雨」が物理的にどう作用するのかは存じませんが、印象的には「緊張感」が出ていて宜しいのではと思います。上手い。

(檜 幽可)

▼私たちは「放射能」に対して敏感な国民だろうと思う。広島、長崎、ビキニ環礁での被爆、そしてフクシマとそうならざるを得ない歴史にあるのかもしれない。それらを忘れてはならない。句にも残していきたいですね。

(平岡久美子)

空が青くてここにいる

佐山祐介

▼今年の夏は空を見る余裕もないくらいの暑さでした。この句の空は涼しい風がそよいでいます。

(佐川智英実)

▼どんより曇った日が続いた後やっと晴れた空、気持ちの

いい青い空、しばらくその場を立ち去りがたい、生きていく実感がある「ここにいる」でとても共感しました。(井尾良子)

▼空が青くてという理由はハッキリしているが、ここにいるとするには、空が青くてきれいだなと気づき、そう思うにはきつと他に何か気分のいいことがあったにちがいない。そんな大人のストーリーが読めるのである。(部屋慈音)

▼透明感に惹かれました。青空の下に立つと、全身を管にして、澄んだ空気を自分の中心に通したくなる——そんなときがありますよね。

(寺田和可)

● 係より

次回も、皆様の作品一句と、今回の作品の感想をお寄せください。左記宛てに、同封の投句用紙、またはメールにてお願いします。

送先〒193-0832 八王子市散田町2-58-4

平岡久美子 メール kumiko801@wh-wing.net

締め切り 2019年10月末